Case Study
支部ケース・スタディ
信越支部

長野県CATVネットワーク光回線を利用した共同制作番組の取り組み

iネット飯山

放送部/長野県ご当地○○対決！事務局
長谷川 央

共同制作番組『長野県ご当地○○対決！』の概要

『長野県ご当地○○対決！』、これが、今回ご紹介させていただきます共同制作番組（参加局5局・月1回更新・59分）のタイトルです。各局の担当ディレクターがテーマに合わせた地元の名物をリレー方式で紹介しています。番組はライブ収録で行っており、各局から同時配信された映像を基地局でスイッチングして一本化しています。演出のひとつとしてディレクター同士でクイズを出し合ったり、スタジオトークのようにアドリブで会話をはさんだりしています。これらの演出が番組に親しみやすい、和気あいあいとした雰囲気を加えています。手作り感満載。素朴なアプローチが功を奏したようで、街の人からよく声をかけていただける番組のひとつになっています。

この番組の収録で活用しているのが「長野県CATVネットワーク光回線」です。「長野県CATVネットワーク」と呼ばれるシステムは一般社団法人長野県CATV協議会が運営しています。2013年春から運用が開始され、現在は長野県17局、新潟県1局が接続されています。主には県内CATV局で共同制作している夏の高校野球長野大会や各局で制作している生中継番組の配信等で活用されています。制作局にとっては情報発信、受信局にとっては編成の奥行きが広がるといった配信・受信局ともに大きなメリットがあります。また、将来的に放送用、通信用共に幅の広い用途での活用も検討されています。

Iネット飯山 放送部スタッフ

長野県CATVネットワークを利用した番組の制作方法

『長野県ご当地○○対決！』は先にご紹介した通り、完パケされた番組を配信・受信するという形とは別の使い方をしています。参加局4局からそれぞれ配信されたライブ映像を基地局で受信し、そこに基地局のスタジオ映像を加えて調整室のスイッチャーで一本化しています。その後、編集を行って完パケをAJC-CMSで配信しています。ちなみに収録時に一本化した映像を参加局に送り返していますので、双方向でのやりとりが可能となっています。

この番組が始まったのは長野県CATVネットワークの本格運用が始まった2013年です。このシステムを使って、リレー中継のような新しい形の番組を制作したいという発想から、この企画が立ち上がりました。当初は弊社と近隣エリアに位置しているケーブルテレビ局2社、合わせて3社でスタートしました。この3社がカバーしているエリアは生活圏が共通という認識があることから、普段から情報交換を行うなど制作の面で良好な関係を構築していました。こういった背景があったことから、多くの調整と時間がかかりそうなイメージのある「共同制作番組」がいとも簡単にスタートしました。

その後、長野県内のケーブルテレビ局にお声がけさせていただいて現在の5社に落ち着いているという形です。ただ、5社といっても必ず収録に参加するという形はとっていません。繁忙期には欠席せざるおえない

場合もあります。こういった時は他の参加局がフォローしあいながら番組継続させています。共同制作の場合はこういった柔軟な対応が必要のように感じます。

番組のコンセプトと参加各局の考え方

コンセプトは「家族三世代が会話をしながら楽しく視聴できること」です。番組を見ながら地域の名物を知る祖父母が鼻高々と語り、子ども夫婦と孫たちが「へぇ～」なんて会話をしている姿を想像しながら制作しています。

また、制作側のコンセプトは「難しく考えず、局の担当ディレクターの個性を活かす」というところにあります。名物紹介の手法は基本的にディレクターワンショット固定で、フリップメインといった形です。この手法であればフリップを作るだけですので、映像制作と比べればだいぶ負担は軽いと思います。制作の仕事でフル回転している中で、新しい番組を増やすのは容易ではありません。決まりごとを極力減らして、「担当者が気軽に楽しく自分を出すことができる」、この形こそが、共同制作番組を継続するために必要だと考えています。

『長野県ご当地○○対決!』各局担当ディレクター

●エルシーブイ 放送制作部 制作課 佐野銀次朗

エルシーブイは諏訪湖周辺の8市町村を放送エリアとしており、「地域の皆様に信頼され、必要とされるメディアになる」ために地域密着の番組制作をしています。『長野県ご当地○○対決！』には長野県内のケーブルテレビ局のみなさんとの交流も含め、一緒に番組制作をしていきたいとの思いから参加をさせて頂いています。毎月のテーマに沿った取材をする際、ディレクターが興味を持った題材を探すため、コアなネタを紹介することが多く、「新しい発見」が多い番組です。取材している側の人間味あふれるプレゼンテーションが、ケーブルテレビならではの、地域に根付いた親近感がわく番組作りに繋がっていると感じています。また、通常のテレビ番組取材とは違い、映像での紹介が少ないことから、取材対象者の想いを伝えるためにディレクターが、どういう紹介の仕方をするのかという点にも面白みを感じています。ディレクターの表情や仕草などから、熱意が伝わりやすい番組であると感じます。長野県は、東西南北それぞれの風土が違う地域です。同じ長野県民でも知らない「文化」を知ることができる番組であり、こうした番組制作をすることができる県内ネットワークという仕組みを足掛かりに、様々な展開が期待できる番組であると考えています。

●エコーシティ・駒ヶ岳 放送課 木下創、田中大貴

長野県の南信、伊南地域、駒ヶ根市・飯島町・宮田村・中川村をエリアに活動しています。4市町村の頭文字を取り、愛称は「みなこいチャンネル」です。制作部の考え方と編成方針は「地域の人の顔をたくさん出す」ことです。取材ネタをこぼさず、できるだけ多くの場所に足を運びカメラを回すことを心がけています。編集する際も、同じ人ばかりが映ることのないように気を付けています。『長野県ご当地○○対決！』に参加する理由ですが、伊南地域はあまり目立たないが、その土地ならではの物、美味しい食べ物、頑張っている人がたくさんいます。それらを長野県内全体に発信できる機会になると思って参加しました。今後も、みなこい地域の素敵なものをお伝えしていきたいと思います。

木下　創

田中大貴

●伊那ケーブルテレビジョン 放送部 稲田久人

稲田久人

伊那ケーブルテレビジョン 放送部スタッフ

サービスエリアは長野県伊那市･箕輪町･南箕輪村の3市町村です。地域から必要とされ、頼られ、期待されるケーブルテレビをめざしています。『長野県ご当地○○対決！』に参加することで放送エリア以外の県内情報を視聴者にお伝えすることができると考えています。テーマの紹介は基本フリップ(写真)なので撮影･編集の手間がなく、忙しいときでもなんとかなっています。また、和気あいあいとした雰囲気で収録ができていることが大きいと感じています。視聴者にもそんな雰囲気を楽しんでもらっているような気がします。他局のディレクターが紹介してくれるものは同じ長野県でありながら、私自身も知らないことが多く発見があります。また、テーマに沿ったエリア内のものを探すので、改めて地域に目を向けることができています。普段交流することがあまりない他局の人たちと繋がりができることもメリットと考えています。他局のディレクターのプレゼンが参考になることが多く、他の番組づくりでも役立っています。また、ネットワーク回線による収録により、コロナ禍でも通常通り番組を制作することもできました。

●ふう太ネット木島平 嘉部義雄

ふう太ネット木島平は平成17年(2005年)4月に開局、昨年15年の節目を迎えた行政局です。加入者数は約1,500件と小規模なCATVで、スタッフは4名で運営しています。本番組に参加している私も普段はお客様サポート担当を主任しており、放送事業は月に3～5日程度しか充てることができません。スタッフが少なく、放送コンテンツを増やすのが難しい中で共同制作はとても助かっています。地域の特性上、加入者の増加もなかなか見込めませんが、今後も地元にあるインフラを活用すべく、放送やその他サービスを継続し、自分たちが住む地域を盛り上げていきたいと考えております。

番組アワード表彰･AJC-CMS配信状況と新しい取り組み

同番組は2015年の日本ケーブルテレビ連盟の「番組アワード」のエクストラ部門5位と奨励賞をいただいています。講評の中でおもしろい番組と評価をいただいて、皆で喜びを共有できたのも共同制作の醍醐味だと思いました。

また、AJC-CMSでも無料で配信させていただいています。現在、約20局で受信いただいており、約190万世帯で視聴することができます。「長野県」といったカテゴリーが県内外で放送してもらえている要因かと考えています。地域の情報発信ツールとしての役割も担えているのではと考えています。

現在、番組では長野県以外の地域からも、Zoomを利用して番組に参加していただけるのではないかと考えています。もし、ご興味を持っていただけるのであれば、ぜひご連絡をお待ちしております。「共同制作」と「長野県CATVネットワーク」はケーブルテレビの可能性を大きく広げ、これからも多くの魅力を生み出すことができる手法だと考えています。

放映された『長野県ご当地○○対決!』より